

「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール一覧
【平成30（2018）年度申請分】

（認定期間：2022年3月31日まで）

対象 教科	団体名	測定ツールの名称	基本 タイプ (※1)	標準 タイプ (※2)
国語	(公財)日本漢字能力検定協会	文章読解・作成能力検定 4級	●	
		文章読解・作成能力検定 3級		●
		文章読解・作成能力検定 準2級		●
	(株)ベネッセコーポレーション	Literas 論理言語力検定 3級	●	
		Literas 論理言語力検定 2級		●
数学	(公財)日本数学検定協会	実用数学技能検定 3級	●	
		実用数学技能検定 準2級		●
		数検スコア基礎診断 数Ⅰ・数A(項目別診断)		●
		数検スコア総合診断 数Ⅰ・数A		●
	(株)ベネッセコーポレーション	ベネッセ数学理解力検定		●
英語	(株)教育測定研究所	英検IBA TEST C 4技能版	●	
	ケンブリッジ大学英語検定機構	ケンブリッジ英語検定 A2 Key for Schools(PB／CB)		●
		ケンブリッジ英語検定4技能CBT (Linguaskill リンガスキル)		●
	(株)Z会ソリューションズ	英語CAN-DOテスト レベル2	●	
		英語CAN-DOテスト レベル3		●
	ブリティッシュ・カウンシル	Aptis for Teens (アプティス フォー ティーンズ／中高生向けAptis)		●
	(株)ベネッセコーポレーション	GTEC Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ	● Core	● Basic Advanced
3教科	(株)学研アソシエ	基礎力測定診断 ベーシックコース	●	
	(株)ベネッセコーポレーション	進路マップ 基礎力診断テスト	●	
		進路マップ 実力診断テスト		●
		スタディーサポート α タイプ、 β タイプ、 θ タイプ		●
		スタディープログラム		●
		ベネッセ 総合学力テスト		●
	(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～	●	
		スタディサプリ 高1・高2 学びの活用力診断～スタンダード～		●

※1: 義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ
※2: 高等学校段階の共通必修科目の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人 日本漢字能力検定協会					
測定ツール名	文章読解・作成能力検定 4 級					
主な対象者	中学校「国語」の学習内容を含めて基礎学力の定着度合を確認したい高校 1 年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○				○	
測定ツールの目的・概要	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的。					
測定ツールの特長・活用例等	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を 5 つの大問により測定。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、4 級では 1 0 0 字程度の通信文、3 2 0 字程度の意見文の作成を課している。測定は 1 回で完結するが、年間 6 日程全てで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立つ。					
実施期間、年間実施回数	年間 6 日程（8 月～1 1 月で 3 日程、1 月～2 月で 3 日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できる。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能。					
実施方式 （CBT/PBT）	P B T					
試験時間（分）	国語	数学		英語		
	6 0 分					
受検料	2, 0 0 0 円（税込）／回					
標準返却期間	約 4 0 日後					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人 日本漢字能力検定協会					
測定ツール名	文章読解・作成能力検定 3級					
主な対象者	高校1年生から2年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○					○
測定ツールの目的・概要	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的。					
測定ツールの特長・活用例等	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視しており、3級では170字程度の通信文の推敲、450字程度の意見文の作成を課している。測定は1回で完結するが、年間6日程全てで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立つ。					
実施期間、年間実施回数	年間6日程（8月～11月で3日程、1月～2月で3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できる。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能。					
実施方式 （CBT/PBT）	P B T					
試験時間（分）	国語	数学		英語		
	60分					
受検料	3,000円（税込）／回					
標準返却期間	約40日後					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人 日本漢字能力検定協会					
測定ツール名	文章読解・作成能力検定 準2級					
主な対象者	高校2年生から3年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○					○
測定ツールの目的・概要	義務教育段階で身につけた語彙力を土台として、文章の読解力や作成力、ひいては論理的思考力やコミュニケーション力を高めることを目的としている。					
測定ツールの特長・活用例等	「基礎力」「読解力」「作成力」に大別し、その能力を5つの大問により測定。特に一定数の文字量の文章を手書きで記述することを重視。準2級では100字程度の通信文、550字程度の論説文の作成を課している。測定は1回で完結するが、年間6日程全てで同レベルかつ異なる問題（新しい問題）を出題しているため、複数回受検して学習の伸長度を確認することも可能。また、大学や企業での活用例も増えてきているため、学習した内容・結果がそのまま入試やレポート作成、就職試験などの将来にも役立つ。					
実施期間、年間実施回数	年間6日程（8月～11月で3日程、1月～2月で3日程）のうち、学校側が都合のよい日程を選択して受検できる。全ての日程で異なる問題を作成しているため、クラスによって異なる日程（時期）を選択することも可能。					
実施方式 （CBT/PBT）	P B T					
試験時間（分）	国語	数学		英語		
	60分					
受検料	3,000円（税込）／回					
標準返却期間	約40日後					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.kanken.or.jp/bunshouken/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	『Literas 論理言語力検定』（『語彙・読解力検定』の後継検定。商標登録申請中）3級					
主な対象者	実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる語彙力・読解力・聴解力などの言語能力を身につけさせたい、高校1年生～3年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○				○	
測定ツールの目的・概要	【目的】 教科の国語をベースとしながら、実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる言語能力を、育成・測定。 【概要】 以下の3領域で測定（級認定）する検定だが、国語の学習指導要領に対応した「語彙運用力」「情報理解力（聴解・読解）」の2領域でPDCAを回して国語の授業改善に生かせるようにする。なお、受検は3領域で行う。 ・論理的思考の基盤となる「語彙運用力」 ・実社会においてさまざまな情報を理解するための「情報理解力（聴解・読解）」 ・視野を広げ、社会課題を理解するための「社会理解力」 3級では特に、実生活で的確に伝え合うための語彙力や、日常生活に関連した身近な話題を的確に聴解・読解して正しく理解する力を育成・測定。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長・活用例】 特に国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する資質・能力の育成とその測定ツールとして活用できる。 【P】事前に教師は、該当学年の生徒の状態目標設定を行う。 生徒は、検定独自のCAN-DOリストから自らの目指す姿の目標設定を行う。 【D】国語の授業と併せて、語彙力・読解力・聴解力に特化した教材で学習。 【C】検定を受検し、結果を確認。 【A】教師は、団体成績表から、生徒の現状を把握し、授業改善につなげる。 生徒は、自己採点をして内容を振り返るとともに、受検結果返却時に自分の学習の成果や課題を認識し、改善につなげる。					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】11月の規定日 【年間実施回数】年1回 ※級認定を行う検定回は上記のとおり。検定実施日以降も、級認定を行わない学校内のアセスメントとして、学校の希望する時期に実施可能。（2019年度の実施月は12月・1月・2月。以降、毎年4・5・6・7・9・10・12・1・2月に予定。）					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間（分）	国語	数学		英語		
	50分 ※「社会理解力」を含む、3領域での時間。					
受検料	【検定】3級：2,250円 ※消費税等込					
標準返却期間	実施後約1か月					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	『Literas 論理言語力検定』（商標登録申請中）公式サイト（ https://literas.benesse.ne.jp ）					

指摘事項	出題に関すること	1	件
	結果提供に関すること	1	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	『Literas 論理言語力検定』（『語彙・読解力検定』の後継検定。商標登録申請中）2級					
主な対象者	実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる語彙力・読解力・聴解力等の言語能力を身につけさせたい、高校1年生～3年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○					○
測定ツールの目的・概要	【目的】 教科の国語をベースとしながら、実生活で生きて働き、各教科の学習の基本となる言語能力を、育成・測定。 【概要】 以下の3領域で測定（級認定）する検定ですが、国語の学習指導要領に対応した「語彙運用力」「情報理解力（聴解・読解）」の2領域でPDCAを回して国語の授業改善に生かせるようにする。受検は3領域で行う。 ・論理的思考の基盤となる「語彙運用力」 ・実社会において様々な情報を理解するための「情報理解力（聴解・読解）」 ・視野を広げ、社会課題を理解するための「社会理解力」 2級では特に、論理的文章の理解・アウトプットにつながる語彙力や、社会課題につながるテーマを的確に聴解・読解して正しく理解する力を育成・測定。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長・活用例】 特に国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する資質・能力の育成とその測定ツールとして活用できる。 【P】事前に教師は、該当学年の生徒の状態目標設定を行う。 生徒は、検定独自のCan Doリストから自らの目指す姿の目標設定を行う。 【D】国語の授業とあわせて、語彙力・読解力・聴解力に特化した教材で学習する。 【C】検定を受検し、結果を確認する。 【A】教師は、団体成績表から、生徒の現状を把握し、授業改善につなげる。 生徒は、自己採点をして内容を振り返るとともに、受検結果返却時に自分の学習の成果や課題を認識し、改善につなげる。					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】11月の規定日 【年間実施回数】年1回 ※級認定を行う検定回は上記のとおり。検定実施日以降も、級認定を行わない学校内のアセスメントとして、学校の希望する時期に実施可能。 （2019年度の実施月は12月・1月・2月。以降、毎年4・5・6・7・9・10・12・1・2月に予定。）					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間（分）	国語	数学		英語		
	50分 ※「社会理解力」を含む、3領域での時間。					
受検料	【検定】2級：2,650円 ※すべて消費税等込み					
標準返却期間	実施後約1か月					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	『Literas 論理言語力検定』（商標登録申請中）公式サイト（ https://literas.benesse.ne.jp ）					

指摘事項	出題に関すること	1	件
	結果提供に関すること	1	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人　日本数学検定協会					
測定ツール名	実用数学技能検定　３級					
主な対象者	数学Ⅰを確実に習得するために、義務教育段階の数学の定着度合を確認したい者					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
		○			○	
測定ツールの目的・概要	義務教育段階の数学の定着度合いを診断することを目的とし、知識・技能を活用する力と思考力・判断力・表現力を測定。					
測定ツールの特長・活用例等	実用数学技能検定（数学検定）３級は、１次：計算技能検定と２次：数理技能検定で構成。２次：数理技能検定では記述式の問題を出題。日常生活や社会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱った問題も出題。年間の実施回数が17回程度設定されているため、実施しやすくなっている。個別成績票と団体成績表が充実しており、高校生の義務教育段階の数学の学力定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進し、高等学校の質の確保・向上に資する検定となっている。					
実施期間、年間実施回数	年間17回程度実施					
実施方式 （CBT/PBT）	P B T					
試験時間（分）	国語	数学		英語		
		１次：計算技能検定　60分 ２次：数理技能検定　60分				
受検料	3,000円（税込み） なお、2019年4月以降の申し込み分（6月検定）から3,200円（税込み）					
標準返却期間	マイページでの合否確認（電子媒体）　検定日から約３週間 検定結果（紙媒体）の到着　検定日から約30日後					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.su-gaku.net/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人 日本数学検定協会					
測定ツール名	実用数学技能検定 準2級					
主な対象者	数学Ⅰ及び数学Aを学修した者					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
		○				○
測定ツールの目的・概要	数学Ⅰ、数学Aの定着度合いを診断することを目的として、義務教育段階（中学校第3学年）の数学を含めて、基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生から3年生までを主な対象とし、知識・技能を活用する力と思考力・判断力・表現力を測定する。					
測定ツールの特長・活用例等	実用数学技能検定（数学検定）準2級は、1次：計算技能検定と2次：数理技能検定で構成。2次：数理技能検定ではおおよそ半数の問題が記述式。日常生活や社会の事象と関連した問題、数理的なゲームやパズルを扱った問題も出題。年間の実施回数が17回程度設定されているため、実施しやすい。個別成績票と団体成績表が充実しており、高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進し、高等学校の質の確保・向上に資する検定となっている。					
実施期間、年間実施回数	年間17回程度実施					
実施方式 （CBT/PBT）	P B T					
試験時間（分）	国語		数学		英語	
			1次：計算技能検定 60分 2次：数理技能検定 90分			
受検料	3,500円（税込み） なお、2019年4月以降の申し込み分（6月検定）から3,700円（税込み）					
標準返却期間	マイページでの合否確認（電子媒体）は、検定日から約3週間後 検定結果（紙媒体）の到着は、検定日から約30日後					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.su-gaku.net/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人 日本数学検定協会					
測定ツール名	数検スコア基礎診断 数Ⅰ・数A(項目別診断)					
主な対象者	義務教育段階の数学ならびに数学Ⅰ・数学Aの基礎学力の定着をめざす者					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
		○				○
測定ツールの目的・概要	数検スコア基礎診断は、「①WEB分析(4か月)+②項目別診断(1回)」の2種類の診断項目で構成。「①WEB分析」とは、生徒のモチベーションを引き出し自学自習の力をつけるよう設計された分析。実施方法は、インターネット環境を利用してパソコンやタブレットから、いつでも、どこでも、何度でも簡単に実施することができる。CBT方式を採用。生徒は、実施後画面上で、学習項目別の正誤・解説・模範解答などによる学習項目別の到達度合を確認・把握することができる。さらに先生は、生徒それぞれの解答状況、理解度、正答率、所要時間、正誤についてWEB画面(管理権限が付与された先生用のアカウントを利用)により閲覧、確認、把握することができるので生徒の日々の理解度、到達度合を瞬時に把握理解することができる。「②項目別診断」とは、WEB分析と同様にCBT方式で実施し、「実施日時」と「診断したい範囲」を先生が任意に設定することができるので、授業の進捗や生徒の理解度、クラス単位に合わせて診断範囲を決めて実施することができる。先生は、数検スコア基礎診断の診断結果を利用し、クラス全体の学習項目理解度と到達度合を把握し、授業計画や改善などのPDCAサイクルをまわす指標として活用することができる。さらに、診断結果で得られる、「生徒の得意・不得意な学習項目、予習や復習への取り組み方や姿勢、学習項目理解度、目標値への到達度合、復習すべきポイント」を把握して、生徒単位の「面談指導」を実施することができる。診断結果の見方については、資料の報告に伴い先生に付与される管理画面の機能などを利用して解説、説明をサポート。また、申し込み時に「個人の情報を持たない」人数分の診断用のIDとパスワードを先生に配付するので、生徒個人の情報登録が不要となり、情報漏洩の心配は一切ない。さらに、診断の申し込みから、診断実施、結果の返却、システムトラブルなどについて万全のサポート体制を構築している。受け付け窓口は、平日の9時から18時までとなり、電話・メールによるサポート。※土日祝は緊急連絡先を用意。					
測定ツールの特長・活用例等	数検スコア基礎診断の特長 1. 診断実施における先生の業務負担を最小限まで抑え、簡単に利用できる診断。WEB分析と項目別診断はCBT方式で実施するので、いつでも、どこでも実施でき、試験資料の配布・回収などの手間は一切ない。 2. 診断結果を利用して、授業の計画や授業改善など、PDCAを回すための指針として活用することができる。先生が事前に設定する診断範囲や目標値、授業重点度における到達度合と理解度、復習すべき項目と復習レベルについてクラス全体が可視化されるため、授業計画や改善のPDCAを回すための資料として利活用できる。 3. WEB分析を利用して生徒個人の日々の学習項目別理解度を把握できる。先生は、生徒個人のWEB分析の実施状況(正答率、正誤、実施回数など)をリアルタイムに集計・把握することができるので、診断を利用した個別指導や目標設定など生徒のサポート教材として利用することができる。 4. 授業の進捗状況やスケジュールなどに合わせて、先生が診断する範囲を任意に設定でき、クラスごとに授業の重点度や目標値を設定することができるため、「先生オリジナルの診断」が実施できる。 5. WEB分析と項目別診断の結果により生徒の不得意分野(不得意な学習要素)や日々の理解度と到達度合、先生が設定した目標に対する理解度を把握することができるため、個人面談の資料として利用することができる。 活用例 1. 数検スコア基礎診断で診断する範囲、目標値を任意で設定しオリジナルの診断として実施し、PDCAを回し授業改善の指針として活用。 2. 数検スコア基礎診断のWEB分析を確認テストや小テストとして利用し、日々の理解度をチェックし、項目別診断を学内の期末テストの補助に利用。 3. 数検スコア基礎診断のWEB分析を予習・復習用の学習教材・補助教材・練習問題などとして利用し生徒の日々の理解度を把握し授業計画の参考とする 4. WEB分析による日々の理解度と項目別診断による到達度を可視化し生徒個人の日々の努力、授業への取り組み方、学習項目ごとの理解度を分析し面談資料として活用。					
実施期間、年間実施回数	2018年9月から申込・実施を開始予定 通年で実施し、項目別診断は先生が任意で実施日時を決めることができる。					
実施方式(CBT/PBT)	CBT					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
		項目別診断：20分～ ※必須20分 ＋約2分×(選択した学習項目数)				
受検料	6,156円(税込)/回 ※WEB分析を含むシステムの利用期間は4か月、項目別診断は1回					
標準返却期間	項目別診断実施後、7営業日程度					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://suken-score.tank.jp/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	公益財団法人 日本数学検定協会					
測定ツール名	数検スコア総合診断 数Ⅰ・数Ⅱ					
主な対象者	数学Ⅰ及び数学Ⅱをすべて学習し終えた者					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
		○				○
測定ツールの目的・概要	数検スコア総合診断は、数学Ⅰと数学Ⅱを中心に義務教育段階の数学を含めて、学習項目ごとの理解度を測定。測定する資質・能力は、数学Ⅰの「数と式」、「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」と、数学Ⅱの「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」と義務教育段階の数学の「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」。 実施方法は、CBT方式で実施し、インターネット環境を利用してパソコンやタブレットから、いつでも、どこでも、実施することができる。 診断実施前に先生から「クラスの目標値」と「学習項目別の授業重点度」をヒアリングし、生徒の診断結果集計に反映させる。反映された診断結果は、先生の授業に直結した結果となるため、授業改善や授業重点度の見直しなど、授業のPDCAサイクルを回す指標として利活用できる。さらに、個人の診断結果を利用して先生は生徒単位の「面談指導」の資料としても活用できる。 CBT方式の実施において、個人の情報を登録せずに「個人情報を持たない」IDとパスワードを利用することで、情報漏洩などを未然に防ぐ。 診断の申し込みから、診断実施、結果の返却、万が一のシステムトラブルについて万全のサポート体制を構築している。受け付け窓口は、平日9時から18時まで、電話・メールによるサポート。※土日祝については緊急連絡先を用意。					
測定ツールの特長・活用例等	数検スコア総合診断の特長 1. 診断実施における先生の業務負担を最小限まで抑え、簡単に利用できる診断。CBT方式で実施するので、いつでも、どこでも実施でき、試験資材の配付・回収などの手間は一切ない。 2. 診断結果を利用して、授業の計画や授業改善など、PDCAを回すための指標として活用することができる。先生が事前に設定する目標値、授業重点度における到達度合と理解度、復習すべき項目と復習レベルについてクラス全体が可視化されるため、授業計画や改善のPDCAを回すための資料として利活用できる。 3. 診断結果を個人面談などの面談資料として利用できる。先生が目標値を設定し、授業重点度に対する理解度も可視化されるため、生徒の不得意分野と合わせて、個人面談の資料として利用することができる。 活用例 1. 数検スコア総合診断の目標値、授業重点度を設定して授業改善、見直しのPDCAサイクルの指標として活用。 2. 数検スコア総合診断を学内で実施していた中間テストや期末テストの補助として活用。 3. 診断結果を生徒との個人面談の資料の一部として利用。					
実施期間、年間実施回数	2018年9月から申込・実施を開始予定 通年で実施しており、実施時期は先生が任意で決めることができる。					
実施方式 (CBT/PBT)	CBT					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
		60分				
受検料	3,456円(税込)/回					
標準返却期間	7営業日程度					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://suken-score.tank.jp/					

指摘事項	出題に関すること	1	件
	結果提供に関すること	1	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	ベネッセ数学理解力検定					
主な対象者	主に、四年制大学・短期大学等への進学をめざす高校1年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
		○				○
測定ツールの目的・概要	【目的・概要】※19年度より新規提供 ・数学の授業内容の理解度把握を目的として、学校の履修進度に沿った出題をしている。これにより、各学校の履修内容に合わせた数学の理解度・定着度を、統計的手法を利用して算出したスコアと4段階（予定）のグレードで確認できる。 ・記述式問題により「知識・技能」から「思考力・判断力・表現力」まで幅広い学力の測定が可能。 ・生徒一人ひとりが目標設定～自己採点～結果の振り返り・事後学習のプロセスを自発的に取り組める仕組みとなっている。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長】 ・授業進度に合った弁別性の高い問題で、数学の学力を的確に把握することができる。 ・付属のアイテムを使って事前の目標設定～受検直後の自己採点～結果返却後の事後学習のプロセスをつなぐことで、生徒の学習改善への自発的な取り組みにつなげる。 ・教師用資料として学年視点からの概況データ、教科視点からの分野別データ等を提供。加えて、生徒個人の受検結果一覧では、グレード認定の状況を過回に遡って確認することができる。 【活用例】 1年生7月に実施し、高1・初期段階の数学の学力を把握することで、その結果を2学期以降の学年の指導計画に反映できる。 1年生11月・1月に継続的に受検することで、学年全体・生徒一人ひとりの学力変化を統計的手法により等化したスコアで把握できるため、学年集会や個人面談の際などに同指標を用いた生徒の自発的な学習意欲を喚起することが可能。					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】1年生7月・11月・1月 計3回 検定日（統一実施日）を設け、その日以外の実施は認めない。 1年生 7月：2019年6月末～7月初旬実施予定 1年生11月：2019年10月末～11月初旬実施予定 1年生 1月：2020年1月下旬実施予定 ※いずれも上記範囲内で検定日を調整中。2018年9月に決定予定。					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間(分)	国語	数学		英語		
	—	7月：80分 11月・1月：100分		—		
受検料	2,200円／回 ※消費税等込					
標準返却期間	答案到着後約4～5週間で返却。					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://www.bhso.ne.jp ※19年度リリースに向けて、左記URLに今後掲載予定					

指摘事項	出題に関すること	1	件
	結果提供に関すること	1	件
	運営その他に関すること	2	件

「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)

事業者名	株式会社 教育測定研究所					
測定ツール名	英検IBA TEST C 4技能版（2019年4月申込受付開始予定）					
主な対象者	英語の基礎学力の定着度合いを診断することを目的とした測定ツールで、特に義務教育段階の学力の定着度評価を確認したい学習者を対象。					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
			○		○	
測定ツールの目的・概要	・教育測定研究所は公益財団法人 日本英語検定協会（以下、英検協会）と英語テストのみならず、管理システム、学習ツールをパッケージ化し、「英語4技能コンソーシアム」を組織。このコンソーシアムの枠組みを通じて、「英検IBA TEST C 4技能版」を提供。 ・「英検IBA TEST C 4技能版」とは、英検協会により開発された、4技能の力を安価に測定できるアセスメントツール。実用英語技能検定（英検）で出題された問題から、良質な問題を再活用して開発。 ・TEST Cの出題レベルは準2級～4級レベルで、義務教育段階から高等学校の必修科目（コミュニケーション英語I）を網羅する出題内容。特に義務教育段階の学力の定着度評価を確認したい学習者を対象。 ・更に、測定ツールの提供のみならず、eラーニング教材及び生徒の受験履歴や成績、教材の学習状況をトラッキングできるシステムも併せて提供し、基礎学力および英検級取得率の向上に向けたPDCAサイクル構築をサポート。					
測定ツールの特長・活用例等	・英検で出題された問題から良質な問題を再利用した4技能の測定ツール。 ・4技能総合および技能別に、英検級レベル判定、および英検CSEスコアによるフィードバックもあり、能力の伸長度を細かく測定。また、テスト結果に応じ、今の英語力でできること（Can-Do）が具体的に説明される。 ・学校単位のみならず、自治体内の学校別の英語力の現状・伸長度を把握し、英語力向上に向けたPDCAサイクルを構築するために活用できる。 ・学校内でも年度当初のクラス分けや、年度途中の能力伸長度の把握にも活用でき、生徒たちのレベルにあった指導が可能。さらに、英検公式eラーニングであるスタディギア for EIKENのベーシック版や既存で活用されている英検対策教材を活用することで、受験結果に基づく得意/不得意技能の強化を図ることができる。 ・団体申込システムである「団体サポートシステム」も利用可。英検及び英検IBAの受験履歴の確認、スタディギア for EIKENの学習状況を閲覧することができ、先生方の学習指導をサポートしていく。英検本検定の申込も可能であり、IBAのCSEスコアから最適な英検級を特定し、受験することで英検級合格率の向上や英語学習に対するモチベーションの向上、ひいては、基礎学力の向上に寄与。					
実施期間、年間実施回数	・問題セットは2セット以上用意しており、複数回受験も可能。 ・学校ごとに受験日の設定が可能。年間実施回数も学校側の希望に可能な限り近づける形で受け付ける。 ・2019年4月申込受付開始、6月より実施可能（予定）。					
実施方式（CBT/PBT）	3技能（RLW）： PBT 1技能（S）： CBT					
試験時間（分）	国語	数学	英語			
			（RL計）45分（W）15分 （S）約8分			
受験料	3,000円/回（税込）					
標準返却期間	協会へ答案着荷後、30日～60日（予定） ＊ 受験時期の集中度合いに応じて若干の幅が生じる。					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	・英検IBA http://www.eiken.or.jp/eiken-iba/ ・スタディギア for EIKEN https://www.ei-navi.jp/service/studygear.html					
指摘事項	出題に関すること	1	件			
	結果提供に関すること	1	件			
	運営その他に関すること	2	件			

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	ケンブリッジ大学英語検定機構（英語表記：Cambridge Assessment English）					
測定ツール名	ケンブリッジ英語検定 A2 Key for Schools（PB/CB）					
主な対象者	高校1～2年生。					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
			○			○
測定ツールの目的・概要	CEFR 基礎レベルのA1-A2からB1に届く3つのレベルを正確に測定。学習者が実生活のさまざまな状況でのコミュニケーションのために英語をどのように使うことができるかを評価する。国際通用性が高く、高等教育機関への扉を開き、就業の機会を高め、勉学や仕事の選択肢を広げる。					
測定ツールの特長・活用例等	日常的に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された出題。コミュニケーション英語Iおよび英語表現Iの目標に合致した内容となっている。 1年間の試験回数はPB/CB合わせて31回（世界共通）※問題セットはすべて異なる					
実施期間、年間実施回数	年間実施回数 計31回 PB：20回 CB：11回 PB：3月[2] 4月[2] 5月[6] 6月[4] 8月[1] 10月[2] 11月[1] 12月[2] CB：2月[1] 3月[1] 4月[1] 5月[1] 6月[2] 7月[1] 9月[1] 10月[1] 11月[1] 12月[1]					
実施方式（CBT/PBT）	PBT/CBT ※A2 Key for SchoolsはCBT/PBT両方の実施方式があるが、いずれもスピーキングはペア型面接。（受検者2名のやり取り）					
試験時間(分)	国語		数学		英語	
					R&W:1時間10分 L:約30分 S:約8-10分 計 約1時間50分	
受検料	公開会場の場合、9,720円（税込）／回 ※自校実施の場合、会場提供の協力費として最大20%割引できる可能性がある。ただし、遠隔地の学校の場合、スピーキング試験官および試験監督の派遣費用が別途掛かる。					
標準返却期間	試験日の7～8週間後。 ※オンラインサービスにてPBT試験日の6週間後、CBT試験日の2～3週間後に確認できる。					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/key/					

指摘事項	出題に関すること	1	件
	結果提供に関すること	1	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	ケンブリッジ大学英語検定機構（英語表記：Cambridge Assessment English）					
測定ツール名	ケンブリッジ英語検定4技能CBT（Linguaskill リンガスキル）					
主な対象者	高校1年生以上。					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
			○			○
測定ツールの目的・概要	CEFR 基礎レベルのA1から熟達レベルのC1以上まで幅広く測定。ケンブリッジ英語検定の品質と信頼を継承した英語4技能自動採点・評価CBT。 正しいCEFRベースおよびCambridge Englishスケールスコアの採点結果を迅速に返却することが可能。 Reading/Listeningはコンピューター適応型テストで、質問は受検者の前問の解答によって難易度が調整される。WritingとSpeaking*はAI（人工知能）によるパフォーマンス評価。（*2018年6月現在、Speakingは採点官による採点であるが、徐々にAI採点へと移行する予定）					
測定ツールの特長・活用例等	試験日時は年間365日いつでも設定可。インターネットに接続されたコンピューターと人数分のヘッドセットがあれば、僻地や離島を含む全国各地での試験実施が可能。 ※トレーニングを受けた試験監督が厳正な試験運営をする場合に限る。					
実施期間、年間実施回数	4月1日～3月31日（365日） 年間実施回数の制限はない。毎日×複数回/日 ※ケンブリッジのガイドラインに則った厳正な試験運営がされる場合に限る。					
実施方式 （CBT/PBT）	CBT					
試験時間（分）	国語	数学	英語			
				R&L:約60-85分 W:45分 S:15分 計 約2時間～2時間25分		
受検料	公開会場の場合、予価 9,000円（税込） ※自校実施の場合、会場およびPC、ヘッドセットなど提供の協力費として割引できる可能性がある。ただし、遠隔地の学校の場合、試験監督の派遣費用が別途掛かることがある。					
標準返却期間	Reading/Listeningは瞬時。 4技能総合のテスト結果レポートは48時間以内*に判明し、1週間以内に電子的に提供。 *2018年現在、採点官が行っているため48時間（2営業日）以内に判定、AI採点に移行後は土日祝日に関わりなく判定される予定。 ※受検者には学校がプリントアウトして返却。					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-tests/linguaskill/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社Z会ソリューションズ					
測定ツール名	英語CAN-DOテスト レベル2					
主な対象者	中学から高校への橋渡しとなる英語力を測りたい、中学レベル～高校初級程度の英語学習者（CEFR A1～A2レベル）					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の 区分	基本タイプ	標準タイプ
			○		○	
測定ツールの目的・概要	『英語CAN-DOテスト』は「使える英語力」を測るためのテスト。CEFRとその枠組みを日本の英語教育に適合させたCEFR-Jを成績評価に用いているだけでなく、その理念の一つである「英語で具体的にどんなことができるのか」を表した「CAN-DOリスト」に基づいて各技能の出題をすることで、実際の言語使用の場面に根ざした実用的な英語の力を評価することができる。					
測定ツールの特長・活用例等	1. 「使える英語力」をコミュニケーションに測る英語4技能テスト 受検者が実際に遭遇しうる言語使用場面に基づいた問題に取り組みながら、「知識としての英語力」ではなく、「使える英語力」がどのレベルにあるのかを測る。 2. 投野由紀夫先生（東京外国語大学教授）監修。CEFR-Jで伸長を可視化 CEFRを日本の英語教育に導入するための枠組みとして開発されたCEFR-Jを用いることで、日々の英語力の伸びを可視化。 3. 授業に組み込みやすい仕様の英語4技能試験 入学・進級時、授業や留学前後の効果測定などに適した試験時間・価格となっている。また、時間・場所を選ばず受検可能。					
実施期間、年間実施回数	【実施回数】年間2回 【実施期間】第1回：4～9月／第2回：10～3月 ※期間内にいつでも受検可能。					
実施方式 （CBT/PBT）	「CBT（全技能）」または「PBT（スピーキング以外）＋CBT（スピーキング）」の選択可 ※CBT（スピーキング）のみのご受検も可能です。					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
			50分（S：11分、L：13分、 その他：26分）			
受検料	【CBT（全技能）】団体：4,212円（税込）／一般：5,054円（税込） 【PBT（S以外）＋CBT（S）】団体：4,644円（税込） ※一般受検はナシ					
標準返却期間	【CBT（全技能）】個人成績表：受検終了から2週間後／団体用成績データ：受検終了から1カ月後 【PBT（S以外）＋CBT（S）】個人成績表：受検終了から1カ月後／団体用成績データ：受検終了から1カ月半後					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.zkai.co.jp/assess/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社Z会ソリューションズ					
測定ツール名	英語CAN-DOテスト レベル 3					
主な対象者	大学入試を見据えた高校レベルの英語力を測りたい、高校レベル程度の英語学習者（CEFR A2～B1レベル）					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
			○			○
測定ツールの目的・概要	『英語CAN-DOテスト』は「使える英語力」を測るためのテスト。CEFRとその枠組みを日本の英語教育に適合させたCEFR-Jを成績評価に用いているだけでなく、その理念の一つである「英語で具体的にどんなことができるのか」を表した「CAN-DOリスト」に基づいて各技能の出題をすることで、実際の言語使用の場面に根ざした実用的な英語の力を評価することができる。					
測定ツールの特長・活用例等	1. 「使える英語力」をコミュニケーションに測る英語 4 技能テスト 受検者が実際に遭遇しうる言語使用場面に基ついた問題に取り組みながら、「知識としての英語力」ではなく、「使える英語力」がどのレベルにあるのかを測る。 2. 投野由紀夫先生（東京外国語大学教授）監修。CEFR-Jで伸長を可視化 CEFRを日本の英語教育に導入するための枠組みとして開発されたCEFR-Jを用いることで、日々の英語力の伸びを可視化。 3. 授業に組み込みやすい仕様の英語 4 技能試験 入学・進級時、授業や留学前後の効果測定などに適した試験時間・価格となっている。また、時間・場所を選ばず受検可能。					
実施期間、年間実施回数	【実施回数】年間 2 回 【実施期間】第 1 回：4～9 月／第 2 回：10～3 月 ※期間内にいつでも受検可能。					
実施方式（CBT/PBT）	「CBT（全技能）」または「PBT（スピーキング以外）+CBT（スピーキング）」の選択可 ※CBT（スピーキング）のみの受検も可能。					
試験時間(分)	国語		数学		英語	
					90分（S：12分、L：24分、その他：54分）	
受検料	【CBT（全技能）】団体：4,212円（税込）／一般：5,054円（税込） 【PBT（S以外）+CBT（S）】団体：4,644円（税込） ※一般受検はナシ					
標準返却期間	【CBT（全技能）】個人成績表：受検終了から 2 週間後／団体用成績データ：受検終了から 1 カ月後 【PBT（S以外）+CBT（S）】個人成績表：受検終了から 1 カ月後／団体用成績データ：受検終了から 1 カ月半後					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.zkai.co.jp/assess/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)

事業者名	ブリティッシュ・カウンシル					
測定ツール名	Aptis for Teens (アプティス フォー ティーンズ/中高生向けAptis)					
主な対象者	10代英語学習者（中等教育課程）で、CEFRでA1からB2のレベルの生徒。					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の 区分	基本タイプ	標準タイプ
			○			○
測定ツールの目的・概要	AptisはSocio-cognitive(社会認知)モデルの言語テストとしてデザインされた。英語を一般的に使用する様々な場面を想定し、英語4技能での、コミュニケーション力を測定する事を目的としている。また10代向けのAptisでは中高生が学校生活で使用する単語を出題に入れている。Aptisは団体向けに設計された評価ツールで、個人向けの資格試験ではない。教育機関等で、学生の英語力を技能別に評価し、授業計画の立案、指導、クラス分け、または授業の質評価の際に利用されている。					
測定ツールの特長・活用例等	実施日時を自由に選べる融通の高さと、CEFRによる成績提供で世界的な基準で英語のコミュニケーション力を評価する点が特徴。技能ごとにCEFRで評価ができるので、強化が必要な技能を認識してPDCAサイクルを計画することが可能。4技能型のテストだが、採点結果も5日以内に提供できるので、授業計画の見直しの際にスケジュールが立てやすいという利点もある。 実際のコミュニケーションを想定した設問となっているので、Aptisを受けることによる良いウオッシュバックも期待される。マレーシア教育省の教員の英語力測定や、日本・京都大学での新規導入プログラムの効果測定に利用された。現在中国の中等教育・高等教育機関でも広く利用されている。					
実施期間、年間実施回数	試験日時は学校側で設定することが可能。 実施回数にも制限はない。					
実施方式 (CBT/PBT)	CBT					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
			合計:172分(約2時間50分) 文法と語彙(コアパート):25分 リーディング:30分/リスニング:55分 ライティング:50分 スピーキング:12分			
受検料	8,640円(消費税8%を含む)/ 回					
標準返却期間	試験終了から5日（最短で3日。受験者数によって5営業日必要な場合がある）					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.britishcouncil.jp/exam/aptis					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	GTEC Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ					
主な対象者	中学1年生～高校3年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
			○		○	○
測定ツールの目的・概要	実際の言語使用場面を前提とし、英語コミュニケーション能力を測定することを目的としたスコア型4技能検定。授業で学んだ英語を「実際に使う」手ごたえを感じられる日本の中高生に適した出題。自分が登場人物になったつもりで取り組める問題も出題されており、受検そのものが英語を使った生活体験に感じられるように工夫。					
測定ツールの特長・活用例等	◆特長1：技能別の英語力をスコア型の絶対評価で測定 技能別の英語運用力を絶対評価で示すので、英語力の伸びを実感できる。継続的に受検することで、「過去の自分からどれだけ成長したか」を数値で把握できる。スコアは4技能のCEFRレベル別結果を確認することができる。 ◆特長2：日本の中高生の英語力を測るのに適した問題 授業で学んだ英語を「実際に使う」という手ごたえを感じられる出題。また、背景知識に左右されないため、より正確に生徒の現在の英語力とその伸長がスコアに現れる。 ◆特長3（及び、活用例）：振り返りに役立つ充実したフィードバック 詳細な教師用帳票とスコアレポート（個人別成績票）により、次の指導・学習のポイントが明確になる。また、生徒一人ひとりに音声付きの付属学習教材「STEP UPノート」を提供。 ※活用例）長期休暇前にテストを受検し、テスト結果に応じて、休暇中に、「STEP UPノート」で自身の英語力を高めることが可能。					
実施期間、年間実施回数	◆検定としてのGTECは、年3回の実施日を予定。 ◆アセスメントとしてのGTECは、2019年度の申込開始は2018年12月から、実施開始は2019年4月からを予定しております。どの問題タイプにおいても、問題内容は4月と10月に切り替え予定で、同じ問題タイプでも年に2回受検できる。 ※上記は、大学入試成績提供システムにおいて、高校3年生時に利用できるGTEC Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ（2020年度～）とは異なる。					
実施方式 （CBT/PBT）	「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の3技能は紙で、「話すこと」はタブレットで実施。					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
			◆Advanced/Basic：合計120分 聞くこと：約25分、読むこと：約45分 話すこと：約25分、書くこと：約25分 ◆Core：合計102分 聞くこと：約20分、読むこと：約32分 話すこと：約25分、書くこと：約25分			
受検料	・検定としてのGTECを受検する場合（4技能） 9月末日実施分まで（8％税込）：6,270円 10月実施分から（10％税込）：6,380円 ・アセスメントとしてのGTECを受検する場合（4技能） 9月末日実施分まで（8％税込）：5,600円 10月実施分から（10％税込）：5,700円					
標準返却期間	答案弊社到着後、約1.5～2ヶ月					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.benesse-gtec.com/fs/					

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社 学研アソシエ					
測定ツール名	基礎力測定診断 ベーシックコース					
主な対象者	中学校の学習内容を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1～3年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容 の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○		○	
測定ツールの目的・概要	基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校の学習内容を含めて基礎学力の定着度合いを確認したい高校1～3年生を主な対象					
測定ツールの特長・活用例等	事前学習【ワークブック】→テスト(測定)→学力分析 →フォロー【フォローアップテスト】					
実施期間、年間実施回数	1年生:第1回 平成31年4月実施開始予定、平成31年1月から受検申込み開始予定 2年生:第1(4)回 平成32年4月実施開始予定、平成32年1月から受検申込み開始予定 3年生:第1(7)回 平成33年4月実施開始予定、平成33年1月から受検申込み開始予定 1・2年生年間3回、3年生年間2回					
実施方式 (CBT/PBT)	PBT *CBTに関しては研究中。					
試験時間(分)	国語	数学		英語		
	50	50		50		
受検料	各回1,700円(消費税込み)※ワークブック、フォローアップテスト含む ワークブック、フォローアップテストについては、学校での採点。					
標準返却期間	答案到着から2～3週間					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.gakuryoku.gakken.co.jp/					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	2	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	進路マップ 基礎力診断テスト					
主な対象者	就職から専門学校を含む各種の学校・短期大学・四年制大学への進学まで幅広い進路をめざす高校1年生～高校3年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○		○	
測定ツールの目的・概要	【目的】 義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度・学習習慣の状況を定期的に測定することで、学校としての指導改善、生徒の学習改善・学習意欲向上・基礎学力向上に役立ててもらうことを目的とする。 【概要】 ・「マーク式」（選択肢）問題と「記述式」問題から構成され、「マーク式」問題では主に基礎学力の「知識・技能」を、「記述式」問題では主に「思考力・判断力・表現力」を測定。 ・義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度をそれぞれの学校の進度にあわせて（回ごとの進度対応）測定することができる。回ごとに事前学習教材の内容とテスト問題の内容が連携している。 ・生徒向けに、基礎学力の到達状況とその状況に基づいた個別の学習課題を結果として提供するとともに、学習アドバイスを提供することで、受験結果を次の学習改善につなげる。 ・学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用できる。 ・1年生から3年生まで全9回構成となっており、選択問題も含むため学校の進度により合った実施・測定が可能。国語・数学・英語についての「マーク式」問題50分間×3教科＋「記述式」問題15分間×3教科に加えて、英語スピーキングテスト問題25分間または学校採点の英語スピーキング問題5分間、アンケート30分間の構成。 ・タイプは2種類あり、Cタイプは「教科診断＋アンケート」、AタイプはCタイプに「進路適性検査」が加わったもの。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長】 ・事前学習教材と教科テストの内容は6割～7割準拠している。診断結果は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」別の観点、「義務教育範囲」「高校範囲」別の観点等で集計し測定している。 ・教科テストとあわせて学習力（教科学習面・生活面・進路面）に関するアンケートがあり、学習習慣作りを含めた生徒向けアドバイスを提供する。 ・事後学習用に、結果に応じた個別問題（生徒用個人帳票に掲載）と動画が提供される。一人ひとりのつまづきに合わせた学習の仕組みを提供することで学習改善につなげる。 【活用例】 1年生4月入学直後に実施し、入学段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映する。また、個人結果をもとにしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができる。1年生9月に2回めを受けることで、4月からの学力の推移と学習力の変容を把握し、4月からの指導成果を検証することで、学年後半の指導改善につなげる。 ・問題は全回各教科とも前年度と同一問題。					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】原則、実施時期×学年回の選択は、学校による自由設定 問題としては、1年生4回、2年生3回、3年生2回、計9回					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間（分）	国語	数学	英語			
	各学年回 「マーク式」問題：50分 「記述式」問題：15分	各学年回 「マーク式」問題：50分 「記述式」問題：15分	各学年回 「マーク式」問題：50分（リーディング・リスニング） 「記述式」問題：15分（ライティング） スピーキングテスト問題：25分 または 学校採点のスピーキング問題：5分			
受検料	Cタイプ：学校採点の英語スピーキング問題の場合：2,260円、英語スピーキングテスト問題の場合：3,060円 Aタイプ：学校採点の英語スピーキング問題の場合：2,980円、英語スピーキングテスト問題の場合：3,780円 ※すべて消費税等込み					
標準返却期間	1回目：「マーク式」結果＝答案到着後約1～2週間で返却（紙） 2回目：「記述式」＝答案到着後約3～4週間で返却（データ）					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	http://www.bhso.ne.jp/					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	3	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	進路マップ 実力診断テスト					
主な対象者	四年制大学・短期大学・専門学校を含む各種の学校への進学から就職まで幅広い進路を目指す高校1年生・2年生・3年生向け					
対象教科	国語 ○	数学 ○	英語 ○	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ ○
測定ツールの目的・概要	【目的】 高校履修範囲を中心（1年6月回は義務教育範囲含む）に基礎学力の定着度・学習習慣の状況を定期的に測定することで、学校としての指導改善、生徒の学習改善・基礎学力向上・学習意欲の向上に役立ててもらうことを目的。 【概要】 ・「記述式」問題により、義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度をそれぞれの学校の進度に合わせて（回ごとの進度対応）、より客観的に測定することができる。回ごとに生徒用事前教材が準備されているので、生徒一人ひとりが意欲的に事前学習に取り組める仕組みになっている。 ・生徒個人向けに、基礎学力の到達状況を全体としての学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」別の結果として提供すると共に、学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげる。 ・学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用できる。 ・1年生から3年生まで各学年3回構成となっており、選択問題も含むため、学校の進度により合った実施が可能。国語・数学・英語の教科問題50分間×3教科に加えて、英語スピーキングテスト問題25分間または学校採点の英語スピーキング問題5分間、アンケート30分間の構成。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長】 ・診断結果は「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の観点で評価し、テストと合わせて学習力（教科学習面・生活面・進路面）に関するアンケートがあり、学力と学習力（学習状況）の両面から、生徒向けにアドバイスコメントを返却。 ・結果を振り返る中で「振り返り問題」を提示し、事後の学習行動を具体的にアドバイス。 【活用例】 1年6月に実施し、入学後1学期段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映。また、個人票を元にしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができる。1年9月に2回めを、1年1月に3回めを受検することで、4月からの学力の推移と学習力の変容を定期的に測定・把握し、指導改善のPDCAサイクルを回し、次学年の指導計画立案につなげる。					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】実施時期は、1年6月・1年10月・1年1月、2年6月・2年10月・2年1月、3年4月、3年6月・3年9月の計9回。3年4月より「理科」「地歴・公民」「基礎・活用」が付く					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間（分）	国語		数学		英語	
	各学年回 記述式問題：50分		各学年回 記述式問題：50分		各学年回 記述式問題：50分（リスニング・リーディング・ライティング） スピーキングテスト問題：25分 または 学校採点のスピーキング問題：5分	
受検料	1年6月～2年6月まで：学校採点の英語スピーキング問題の場合：1,750円、英語スピーキングテスト問題の場合：2,550円 2年10月以降：学校採点の英語スピーキング問題の場合：1,860円、英語スピーキングテスト問題の場合：2,660円 ※すべて消費税等込 ※3年4月より「理科」「地歴・公民」「基礎・活用」の科目が増えるが、受検料は「2年10月以降」と同じ金額。 ※英語スピーキング問題について、2019年度3年生対象回は学校採点のみの対応となる。					
標準返却期間	答案到着後約4週間。					
URL（事業者のHPにおける測定ツール紹介）	https://bhso.benesse.ne.jp/ ※教員専用URL					

指摘事項	出題に関すること	5 件
	結果提供に関すること	3 件
	運営その他に関すること	2 件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	スタディーサポート α タイプ、 β タイプ、 θ タイプ					
主な対象者	主に、四年制大学・短期大学等への進学を目指す生徒が多い高校の高1生～高3生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○			○
測定ツールの目的・概要	【目的】 大学進学に向けた、国語・数学・英語の基礎学力の定着度と学習力（学習習慣・学習方略等）について把握することで学校の指導改善、生徒の学習改善・基礎学力の定着・向上に役立てる。 【概要】 ・生徒個人向けに、基礎学力の到達状況とその状況に基づいた個別の学習課題を結果として提供するとともに、課題克服に向けた教材や学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげる。学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用できる。 ・難易度は3タイプあり、3学年5回（1・2年は2回、3年は1回）の各回で履修進度に応じた出題範囲を設定している。義務教育範囲を含めた出題は1年1回でのみの出題となっている。 ・各教科「マーク解答式」問題と「記述式」問題に分かれており、主に、「マーク式」問題では基礎学力の「知識・技能」を、「記述式」問題では「思考力・判断力・表現力」を測定。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長】 ・事前にドリル問題と目標設定ワーク付き冊子を提供。この冊子には、診断結果を見て取り組める事後ワークシートやアドバイスもついており、生徒個人が振り返りを行うことで次の学習改善を促す。学力診断については、その結果に応じた復習問題を生徒個別に結果データとあわせて提供し、自身の改善点を自覚し復習に取り組むしくみとなっている。また、問題演習だけでなく学習の仕方や工夫にも具体的なアドバイスを提供。 ・出題内容は実施時期に合わせた進度対応となっており、各回で異なる。問題難易は3タイプ（難度順にβ、α、θ）を用意しており、β・α タイプは過年度比較用の同一問題（毎年同じ問題）、又は新作問題の選択が可能。θ タイプは、前年度同一問題のみとなっている。 【活用例】 1年4月入学直後に実施し、入学段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映する。また、個人結果をもとにしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができる。1年9月に第2回を受けることで、4月からの学力の推移と学習力の変容を把握し、4月からの指導成果を検証することで、学年後半の指導改善につなげる。					
実施期間、年間実施回数	実施期間：第1回（3月～5月末）：1年・2年・3年 第2回（8月～10月末）：1年・2年 計5回					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
	①「マーク式」問題：50分、60分、70分の3種類の設定あり。学年回及び、現／現古／現古漢と難易度タイプで異なる。 ②「記述式」問題：15分	①「マーク式」問題：60分、80分、120分の3種類の設定あり。学年回及び難易度タイプで異なる。120分は3年で数学を2コース受検する場合。 ②「記述式」問題：15分	①「マーク式」問題：1年70分／2年3年は難易度タイプで70分/80分/90分/100分（ライティング・リスニング）の4種類の設定あり。 ②「記述式」問題：15分（ライティング） ③学校採点のスピーキング問題：5分			
受検料	3,100円（1回分） ※動画付は、1・2年用2回セットで7,440円、3年用1回で5,800円 ※すべて消費税等込					
標準返却期間	1回め：「マーク式」結果＝答案到着後約1週間～10日間で返却（紙） 2回め：「記述式」結果＝答案到着後約3～4週間で返却（データ）					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://bhso.benesse.ne.jp/ ※教員専用URL					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	3	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	スタディープログラム ※2019年度より新規提供					
主な対象者	主に、四年制大学・短期大学等への進学を希望する高校1年生・2年生 ※特に、高等学校教科書例題レベルの基礎学力定着を確実にしたい高等学校					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○			○
測定ツールの目的・概要	【目的】 高等学校履修範囲における国語・数学・英語の基礎学力の定着を目的とした教材で、日常的な学習習慣づくりと基礎学力の定着を支援する学習・指導ツールと診断ツールを一体的に提供。 【概要】 「スタディープログラム」は、学習ツール（分野・単元毎の学習教材、学習動画）と診断ツールが一体となった教材。学習ツールとしては、国語・数学・英語の基本的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の習得を確実にするため、分野・単元別のプリント教材と学習をサポートする学習動画を提供。診断ツールとしては、国語・数学・英語それぞれ既習範囲の分野・単元の学習定着度を測定するため、年間3回の実施期間毎に進度に応じた出題範囲・内容で測定を行う。また、学習状況調査で受検者の学習状況を診断。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長】 学習ツール（分野・単元毎の学習教材、学習動画）は、各教科の学習系統に基づいて教材を設計しており、授業進度にあわせて体系的に基礎学力の定着を促す。また、付属する学習動画により、受検者自身による自学学習をサポート。 診断ツールは、年間3回の実施期間があり、各回で出題範囲・内容が異なる。国語・数学・英語の出題は、マーク式問題と記述式問題をあわせた構成で、それぞれ既習範囲の分野・単元から網羅的に出題をすることで、学力定着度合を測定する。また、学習状況調査により日常での学習の取り組み度を診断する。 年度毎の新作問題ではなく、同一問題を毎年出題することで、学年間の経年比較などが行える。これにより、学年・クラス等の集団における習得状況・つまづき把握を指導改善につなげることができる。診断結果は段階別評価で提供することで、受検者自身が学習の積み上がり度合を確認できる。また、個人・学年単位の苦手分野・単元の診断結果とあわせて提示する学習ツール（学習教材、学習動画）を学習改善・指導改善に役立てることができる。これによりPDCAサイクルの構築に繋げることができる。 【活用例】 授業進度に応じて、分野・単元の導入やまとめのタイミングでの理解度の確認に学習プリントを活用できる。授業時間内での活用のほか予習・復習や課題としても活用できる。特に分野・単元の導入では、これからの学習事項のつまづき要因となりやすい既習範囲の振り返りに役立てられる。また、診断ツールを年間最大3回実施し、学力と学習の観点で現状や変容の定点観測を行い、診断結果を指導改善や指導計画へ反映することができる。					
実施期間、年間実施回数						
実施方式 (CBT/PBT)	PBT					
試験時間(分)	国語		数学		英語	
	マーク式・記述式問題：50分		マーク式・記述式問題：50分 ※2年生第2回と2年生第3回の数学は50分コース・100分コースから選択		マーク式・記述式問題：50分 (リーディング・ライティング・リスニング) 学校採点のスピーキング問題：5分	
受検料	¥6,000円 ※消費税等込 ※「スタディープログラム」年間利用料として、診断3回までの受検を含む。					
標準返却期間	1回め：マーク式結果＝解答用紙到着後、約2週間で返却（紙） 2回め：マーク式と記述式をあわせた結果＝解答用紙到着後、約1か月で返却（データ）					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	2018年11月以降、右記サイトに掲載予定：http://bhso.benesse.ne.jp ※教員専用URL					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	2	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	ベネッセ総合学力テスト					
主な対象者	主に、四年制大学・短期大学等への進学をめざす高校1年生・2年生					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○			○
測定ツールの目的・概要	【目的・概要】 ・国語・数学・英語各教科についての、学校の授業内容の定着度把握を目的として、学校の履修進度にそった出題をしている。これにより、履修内容に合った学力の定着度確認と苦手分野の把握を客観的に行う。 ・各教科とも、記述式問題により「知識・技能」から「思考力・判断力・表現力」まで幅広い学力の測定が可能。 ・紙媒体とWebサービスを複合的に利用することができ、生徒一人ひとりが目標設定～自己採点～結果の振り返り・事後学習のプロセスを自発的に取り組める仕組みとなっている。					
測定ツールの特長・活用例等	【特長】 ・授業進度にあった弁別性の高い問題で、学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」を利用して教科学力を的確に把握することができる。また、学校生活や学習面に関するアンケートを実施し、その変化とともに学力の変化を確認できる。 ・生徒が自身の力で事前の目標設定～受検直後の自己採点～結果返却後の振り返りと事後学習に取り組める仕掛けを、紙媒体およびWebサービスの組み合わせで用意。 ・先生向けに、受検後の教師用資料として学年視点での概況データ、教科視点での分野別データ等を提供する。Webサービスとして、先生が生徒の各時点での取り組み状況を確認可能であり、総合的に事後の指導改善に役立てられる。 【活用例】 1年生7月に実施し、高校1年生の1学期段階での「教科学力」の初期把握を行うことで、その結果を2学期以降の学年の指導計画に反映。1年生11月・1月に継続的に受検することで学年全体・生徒一人ひとりの学力変化を把握し、学年集会や個人面談の際などに生徒の自発的な学習意欲を喚起することが可能。					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】1年生7月・11月・1月、2年生7月・11月・1月 の計6回 各回とも統一実施日を設け、その前後1週間程度を実施可能期間として設定 【お申込み時期】各回とも統一実施日の15～20日前に「申込締切日」を設定					
実施方式 (CBT/PBT)	PBTのみ					
試験時間(分)	国語	数学	英語			
	<1年生> 7月：60分 11月：80分 1月：80分 <2年生> 7月：80分 11月：80分 1月：90分	<1年生> 7月：80分 11月：100分 1月：100分 <2年生> 7月：100分 11月：100分 1月：120分	<1年生>リスニング・リーディング・ライティング 7月：60分 11月：80分 1月：80分 <2年生>リスニング・リーディング・ライティング 7月：80分 11月：80分 1月：90分 ※学校採点のスピーキング問題：5分			
受検料	<1年生> 全回：2,820円 <2年生> 7月：2,930円 11・1月：3,080円 ※すべて消費税等込					
標準返却期間	答案到着後約4～5週間で返却。					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	http://www.bhso.ne.jp ※教員専用URL					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	3	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ					
測定ツール名	スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～					
主な対象者	高校1年生、高校2年生 共通必修科目の定着を必要とする生徒					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○		○	
測定ツールの目的・概要	高校1年生、高校2年生について、生徒の基礎学力をしっかりと定着させ、応用できる力をつけさせることを目的とし、問題構成にあつては、知識・技能の問題のみでなく、思考力・判断力・表現力を見る問題も合わせて出題。また、生徒に基礎レベルの徹底的な復習を行わせ、定着させ、また指導者に対して、生徒指導に役立つ結果資料を提供すること。 本ツールではスピーキングは測定せず、問題、採点基準のみ提供。					
測定ツールの特長・活用例等	本ツールは「スタディサプリ」との連携を考えて企画。測定用問題セット（詳しい解答解説付き）と復習用問題セット（詳しい解答解説付き）からなる。このツールの最大の特長は、問題作成段階から「スタディサプリ」との連携を意識して作成している点である。生徒は測定用問題を受検することにより、基礎項目のどこに定着していない部分があり、またそれら未定着の部分のうち、どこを優先して学習し直せば良いかを把握することができる。また指導者はそれら優先課題について「スタディサプリ for Teachers」を使って、生徒に指示を的確に与えることができ、それらの取り組み状況を把握することができる。					
実施期間、年間実施回数	年1回、1月実施。（2019年12月1日受検申込み開始予定、2020年1月実施開始予定。）					
実施方式 （CBT/PBT）	PBT					
試験時間(分)	国語		数学		英語	
	50分		50分		50分	
受検料	3000円					
標準返却期間	1.5か月					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://teachers.studysapuri.jp/shindan					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	2	件
	運営その他に関すること	2	件

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ					
測定ツール名	スタディサプリ 高1 学びの活用力診断～スタンダード～ スタディサプリ 高2 学びの活用力診断～スタンダード～					
主な対象者	高校1年生、高校2年生 基礎学力の定着を必要とする生徒 大学等への進学を考えている生徒					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○			○
測定ツールの目的・概要	高校1年生、高校2年生について、生徒の基礎学力をしっかりと定着させ、応用できる力をつけさせることを目的とし、問題構成にあつては、知識・技能の問題のみでなく、思考力・判断力・表現力を見る問題も合わせて出題。また、生徒に基礎レベルの徹底的な復習を行わせ、定着させ、また指導者に対して、生徒指導に役立つ結果資料を提供する。 本ツールではスピーキングは測定せず、問題、採点基準のみ提供。					
測定ツールの特長・活用例等	本ツールは「スタディサプリ」との連携を考えて企画している。測定用問題セット（詳しい解答解説付き）と復習用問題セット（詳しい解答解説付き）からなる。このツールの最大の特長は、問題作成段階から「スタディサプリ」との連携を意識して作成している点である。生徒は測定用問題を受検することにより、基礎項目のどこに定着していない部分があり、またそれら未定着の部分のうち、どこを優先して学習し直せば良いかを把握することができる。また指導者はそれら優先課題について「スタディサプリ for Teachers」を使って、生徒に指示を的確に与えることができ、それらの取り組み状況を把握することができる。					
実施期間、年間実施回数	高1、高2とも年間3回で、7月、11月、1月にそれぞれ標準実施日を設けている。（2019年6月1日受検申込み開始予定、2019年7月以降実施開始予定。）					
実施方式 （CBT/PBT）	PBT					
試験時間(分)	国語		数学		英語	
	1年7月…60分 1年11月、1月…80分 2年7月、11月…80分 2年1月…90分		1年7月…80分 1年11月、1月…100分 2年7月、11月…100分 2年1月…120分		1年7月…60分 1年11月、1月…80分 2年7月、11月…80分 2年1月…90分	
受検料	高1：3000円、高2：7月回3000円、11・1月回3300円 （2年生の11月、1月については理科、地歴公民も含む。）					
標準返却期間	1.5か月					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://teachers.studyapuri.jp/shindan					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	2	件
	運営その他に関すること	2	件